「投火」—　ルカによる福音書12章49−53節より

2016年8月14日説教

By Rev. E. Carl Zimmermann

私だけ、それともイエス様は皆さんをも混乱させているでしょうか？　あなたが

イエス様が何を言おうとされているか理解できたと思った途端、イエス様は

私たちが頭を傾げるようなことをされたり、言われたりするからです。

イエス様が癒されたのは数人で、全員ではありませんでした。イエス様は５千人に食物を与えましたが、残りの何千人もの人達は空腹のまま床につきました。

イエス様は巧みな話をされましたが、話を聞いている人々は往々にしてイエス様が一体何を話しているのか理解できないでいました。イエス様は「世の光」と呼ばれましたが、人々を暗闇の中にいるような何もわからない状態に置かれたりもしました。イエス様は人々を無条件に愛されましたが、彼を陥れようとする者には容赦なく毒蛇の群れと呼びました。イエス様はユダヤ人だけに宣教すると言いながら、イスラエルの外にも出て異邦人を癒し、赦しました。

そして今日の福音の箇所で私たちが見るイエス様は、喜びと平和の言葉を語る代わりに、苦難の警告をしています。事実、ここで私たちが見るイエス様は、私たちには心地よく感じられません。先ずはルカ福音書の12章の少し前の節から読み直すことが必要だと思います。

イエス様が神の国について語られた後、群衆の心には混乱と質問が残りました。

もし彼らが忠実にイエス様に従い、奉仕者と弟子としての人生を受け入れたなら、彼らは充分なお金と食物と衣服を得られるでしょうか？彼らの恐れを静めようとして、イエス様は彼らに空の鳥を見なさい、野原の花々を見なさい、と言われました。空の鳥も、野原の草花も生き抜いていく、なぜなら、神様は彼らが必要なことをご存知だから。まして私たちはなおさら心配には及ばないのです。

そこで、人々は将来のことを心配してイエス様に尋ねたところ、イエス様は巧みな言い方で彼らに質問をされます：

「思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか？」

言葉を変えると、未知のことで思い悩む代わりに、「落ち着いて、一歩下がって、深呼吸をしましょう」、そして神様が全てをコントロールしてくださっていることを思い出そう、ということでしょう。

彼らの関心に答えて、イエス様は温かい言葉で優しく彼らに語られています。

私には、イエス様が暖炉のそばで、揺り椅子に座ってくつろぎながら、静かに優しく人生に迷っている人、貧しい人、精神的に参っている人々に話しかけている風景が目に浮かびます。

私の目には、イエス様は常に落ち着いた振る舞いの方で、どのような状況にあっても、常に冷静であり、感情に流されることがない方です。イエス様は、わめき散らすことなく、淡々とご自分のメッセージを人々に伝え、感動させることができる方なのです。

しかしながら、私たちは今日の福音の箇所で、いつもと違う態度のイエス様に出くわしてしまいました。

なぜなら、今日の福音では、イエス様の語られている言葉は、警告と審判だからです。目を釘付けにしている群衆に対して爆弾宣言をされているのです。

「わたしが来たのは、地上に火を投じるためである。わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。」

少し前の節で、空の鳥や、野原の花を語っていたあのお優しい、静かな物腰の、温かい心のイエス様はどうしてしまったのでしょう？なぜ彼の声音は厳しく堅く

なってしまったのでしょう？

イエス様の優しい平和の言葉の方を聞きたいと願うのはわかりますが、イエス様の厳しいお叱りと警告の宣言を聞くことも私たちにとって必要なのかも知れません。

正直なところ、イエス様がこのように話すのを聞くのは、私たちにとって心地よいものではありません。イエス様の厳しい一面は私たちにとって親しみがないからです。しかし、このようなイエス様の滅多に見せない怒りの爆発は、ほとんどイエス様の関心と愛情の印なのです。

人間のレベルで考えるとすれば、こういうことです。なぜ良い両親は彼らの子供を叱るのか？　それは親が子供を深く愛しているからなのです。

ある人がこう言っていました：「子供を持つ前は、あまりにも人を愛するがために、その人がどれだけ私を怒らせるか、全く理解できなかった。」

短期間でしたが、サウスカロライナにいた時、私たちは広い敷地に広がって建てられたアパートの一つに住んでいました。ある日のこと、息子のティムが４歳の時でした、彼は自分一人で外に出て行ってしまったのです。その時の状況は、私はボニーが、ボニーは私が彼のお守りをしていると思い込んでいたのです。

私たちは、ティムがいないことに気がついたとたん、パニックになり、彼の名前を呼びながら広い敷地内の建物の間を走り回りました。やっと見つけて、何事もなかったと安心した時、私は彼のお尻を叩いたらいいのか、抱きしめたらいいのかわかりませんでした。彼を愛していたから、私たちは二人共、安堵感と怒りを同時に感じていたのです。

イエス様が、「私は火を投じる為に来た」と言われた時、彼が言いたかったのは、

時として善良な人たちもよく話し合う必要がある、ということなのです。

信じられないかも知れませんが、暴動が起こる時は、いつも悪い事を示しているとは限りません。

私は、数年前にコロラドスプリングの近くで起こったBlack Forest と呼ばれる山火事の記事を読みました。以前は何千エーカーもの森林が燃焼し、鎮火後に撮った空中写真を見ると、そこは完全に荒廃した無残な風景でした。そして、この土地はこれから長い年月不毛のままであろうと予測されました。

実際の話し、何人かの専門家は植物の適応性を忘れていたようです。

山火事の後は、焼け焦げて灰となった土が新たな生命を育むため、森林の成長率が増すのです。ちょうど良い事に、新たに生まれた植物は、さらに健康で火に対する抵抗力があるのです。

キリストが来られる時、私たちは嫌でも自分たちの罪や過ちに直面しなければならないでしょう。それはちょうど山火事の真っ只中に置かれたようなものです。

象徴的感覚で言うと、私たちは「焼却された」のです、でも神様は焼け跡の泥と灰の中に跪いて、私たちがより健康で強く、新たに創造された者になるようにと造り変えてくださるのです。

焼かれるのは決して嬉しいことではないし、キリストが地上に火を投ずるために来たとの宣言は、聞こえが良くないかもしれない、しかし、悲惨な山火事の後に、見事に生まれ変わった森林のことを考えてください。そしてもし神様があなたの過ちを全て焼却して灰と化し、その灰を用いて、あなたを神様がずっと望んでいた通りの人間に造り変えてくださるとしたら、あなたの人生はどうなるだろうか、考えてください。

 　　訳：芙美Liang